

恵みと真理のニュース



2020年01月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



[証]

神様が私の家族に環境を乗り越えて、主の中でいつも喜びながら感謝する信仰をくださって、神様の全能で哀れみ深い助ける手を感じて生きるようにしてくださって感謝します

私は一年一回二回は必ず巫女を呼んで祭祀をする家庭で生まれ育ちました。教会は小学生の時、学用品をもらうため、クリスマスと夏の聖書学校に行くほどでした。大人になって結婚して4年経っても子供がいなくて心配しながら病院を通うとき、職場の先輩から伝道されたけど、心が頑な私は、一言で断って教会の話はしないように強くなりました。それから、6ヶ月が経って、ある日、夢を見ましたが椅子に座って働いている時、聖徒達が手に聖書を持って来られ、ソファに座って賛美を歌うのでした。目覚めてから、「私が、教会に行かなければならないようだ。」と思いました。職場先輩がわたしの家の近くに住んでいる恵と真理教会の執事を紹介してくださって恵と真理教会に行くことになりました。その時から、1989年でした。私は、教会に通うとすぐ、神様が子を授けるとして待ちましたが、半年が経っても妊娠が出来なくて、失望し教会を辞めました。すると、時間が経つほど心が空しくなり、あちこちが痛くなりました。初めては私は自ら教会に行って私の意志で、イエス様を信じると思いましたが、再び、教会に出て説教を聴き、聖書を読みながら救いの意味を知りようになり、神様が私を選んで呼んでくださった事実を悟り、感激の涙を流しながら神様に感謝を捧げました。そして、結婚9年ぶりに、きれいな娘を出産する喜びを味わいました。また、1998年年越し礼拝に参席して、交通事故以後、いくら病院に通っても治らなかつた首と頭の痛みを治る恵を体験しました。田舎に住むときには教会を通った旦那が、職場生活をはじめながら礼拝を疎かにしたので、私が強く勧めて仕方なく教会に通いました。旦那の信仰成長のため教会奉仕を勧めるたびに 答えがなかった旦那が大きい事故にあいました。2008年11月、ある日、私が退職した後、普通より早く区域礼拝を終えて家に帰って来たら、旦那の留守番電話がありまし

た。私に電話をする時間ではないのと思い、旦那に電話をかけると力がない声で事故にあって病院に行くところだとしました。その話を聞きましたが、わたしは旦那の状態がそんなに心配ではなかったです。そして、応急室にいる旦那は大きい怪我をした人には見えませんでした。3千ボルトの高圧電気が夫が感電した大事故でした。特に心配していない私がおかしかったし、むしろ職場の同僚の方たちがもっと心配しました。

様々な検査を受けた結果、旦那は前の歯が壊れて、親指に傷があるくらいで他の異常はなかったです。職場の同僚達が応急室の前に集まって話すのを聞きました。「このように怪我がないのは奇跡だ」という話を聞いて大きい事故だったのを悟りました。私が礼拝を捧げる間、時間と空間を乗り越えて働かれる神様の恵みが、その時、望まれたと思って神様に感謝を捧げます。医師と職場の施設関係者達の話は、そのくらいの感電事故なら、ほとんどの人が腕と足を切断されたり、重要な臓器が損傷されて一生、不自由な状態で過ごすようになり、酷かったら命を失うとしました。旦那は「神様が私を助けてくださった。」としながら、神様が生きておられ、全能なる神様の御業を人の前で告白しました。

以後、旦那は「奇跡の男」というあだ名を得て、恵で生きる人生で熱心に主を仕えて福音を伝えるため奉仕を始めました。賛美をする時、一番せだと話す娘は、いつの間にか、大学生になって聖歌隊で奉仕して、私は区域長として区域を仕えて旦那も当時、メスカム宣教会の会員として全ての家族が教会中心の生活をしながら人生の中でいつも主が共におられるのを感じて神様に感謝する生活をしました。

そうするなかで、ある日、2014年に旦那が小さい病院で 前立腺肥大症の手術中に膀胱癌の診断を受けました。旦那が癌の診断を受けて、すぐわたしの心が恐れましたが、祈りをしながら、時間が経つ中で感謝する心で変えました。前立腺炎の手術をしなかったならば、癌を早く発見しなかったのに、今回も神様が旦那を助けてくださり、あらかじめ、働かれてくださったと思いました。聖霊様がこのように私と家族にどんな状況でも肯定的に解釈して判断できる尊い信仰をくださいました。以後、旦那はその病院で三回にかけて手術を受けました。手術を受けたので肉体的で体力がなくなりました。私も3年前に首と腰のヘルニアで苦勞する中で神様の恵みで手術をしなくても、日常生

活に大きい問題はなかったですが、たまに痛みがあって、旦那の重い病気で重なって肉親的で疲れていました。それで、旦那の3次手術を受けたときには心が切なくなってもって神様をおおぐようになり、境界と聖徒達に祈りを頼みました。

大変な状況で旦那と私は当会長の牧師に按主祈りを受けました。すると、治療に対する希望が充満になり神様に全てを委ねると心が楽になりました。私と娘と旦那もよることに詩篇91編の御言葉を黙想しながら共に切に神様に祈りました。旦那を心配する人々に神様が治療してくださると大胆にはなしました。そして3次手術を受けて、6ヶ月が経った後、担当医師が今は癌細胞が発見されないと言われました。少し以上があったらそのところだけ、組織検査を受けました。私たちの夫婦はその結果も全て神様に委ねて、全身全力に祈りました。

どころが、保険問題でソウル大学病院に行って再び精密検査を受けるようになりましたが、その結果、「悪性腫瘍」ではなく、膀胱警戒性腫瘍といわれました。そして、その後、6ヶ月ごとに追跡観察をするようになりました。ハレルヤ！神様が旦那の健康がもっと悪化されないようにしてくださって生活に大きい不便がないようにしてくださいました。

私たちの夫婦は神様が治療してくださった肉親の健康を守るため、今日も熱心に運動して、食べ物も節制しています。老年に健康な体で活発に活動しながら生きるように、残った生涯に真面目で忠誠して主の事をしながら、天国で話せられない栄光を享受するように神様が、癒しの恵を与えてくださったと思います。そして、周りの人々の中で病弱な聖徒を見かけるたら、旦那が病気で苦しんでいたその時、思った切ない心で、その方々のため、神様に祈る勸士になったのも神様の恵みです。

神様は私たちの夫婦の愛する娘に大事な夢と希望を与えてくださり、大学院に入ってそのビジョンをかなうように熱心に勉強をするように助けてくださいます。旦那もすぐ、退職をするなら私が、今奉仕する国内宣教会で共に福音伝道に力を尽くします。私たちと共におられ、愛と哀れみを与えて天国の道に導いてくださる神様がおられてわたしの心強くて、わたしの人生が幸せです。声を高く、「どんな事があっても全ての事が益となり賛美を歌い、神様に全ての栄光を捧げます。



[信仰コラム]

責められる聖霊様

「...それがきたら、罪と義とさばきについて、世の人の目を開くであろう...」(ヨハネによる福音書16:7~11)

聖徒達は父親である神様とイエスキリストに対してだけではなく聖霊様に対しても良く知らなければなりません。聖徒達は聖霊様によって霊的な生命を持ちながら生きていくからです。神様の選ばれた者達のために聖霊様が行われる多様なことなかでまず、不信者を責められることに関して調べてみましょう。イエス様が聖霊様がお越しになると「罪と義とさばきについて、世の人の目を開くであろう」と言われました。続いて「罪についてと言ったのは、彼らがわたしを信じないからである。義についてと言ったのは、わたしが父のみもとに行き、あなたがたは、もはやわたしを見なくなるからである。さばきについてと言ったのは、この世の君がさばかれるからである。」としました。

第一は、「罪についてと言ったのは、彼らがわたしを信じないからである」としました。イエスキリストを信じないと誰でも審判を受けて滅びます。この滅びとは死んでなくなるのではなく、永遠に地獄刑罰に処されることを言います。イエスキリストを信じないことが滅びに至る罪です。人々はこのように事実について知りません。聞かせても悟らずに却ってあざ笑います。しかし、神様の選ばれた者達は

聖霊様が責められるとイエスキリストを信じないことが滅びに至る罪であることを悟り悔い改めます。イエスキリストを信じるようになります。自分の救い主として迎接して主に仕えます。

第二は、「義についてと言ったのは、わたしが父のみもとに行き、あなたがたは、もはやわたしを見なくなるからである」としました。人間に死が近づいたのはアダムの犯罪によることです。サタンは誘惑に負けたアダムとエバが神様の命令に逆らい善悪の実を食べて「きつと死ぬ」と言われた神様の御言葉通りに人間は霊的な死と共に肉親も徐々に死に至るようになりました。しかしイエス様が聖書に預言されて、イエス様御自分が数回予告なさった通りに葬られてから三日目に死亡権勢に勝たれ復活なさいました。これはイエス様が罪のない方であるという事実と私達の罪を成功的に完全に贖われたという事実を全て確認することです。イエスキリストがくださる義は人間関係での義とは異なります。イエスキリストによる義は罪が全くない状態であり神様の前に進むことができる資格です。このような義に対する真理は人間が自ら悟ることができず、福音を聞く者に聖霊様が責めてくださらなければなりません。

第三は、「さばきについてと言ったのは、この世の君がさばかれるからである」としました。イエス様が変化の山の上でペテロとヤコブとヨハネにこのようなことを言われました。「今はこの世がさばかれる時である。今こそこの世の君は追い出されるであろう。そして、わたしがこの地から上げられる時

には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」としました。イエス様が十字架に高くつけられて死なれることを予告なさったのです。そしてイエス様の死はこの世の君として君臨しているサタンに対する審判になることを言われたのです。

罪と死によってこの世に君臨しているサタンにイエス様の死は決定打でした。イエス様の復活で罪と死亡の権勢が廃されたからです。従って、イエスキリストを信じる人は定罪を受けず刑罰の審判を受けなくなりました。このような真理をこの世の人々は知りません。サタンがいかなる存在であるか、何をするか、どのように審判を受けたのかについて全く無知です。聖霊様は人生達にこの世の君として君臨しているサタンがいかに審判を受けて、その結局がどのようになるかについて明らかに知らせてくださいます。私達がイエスキリストを信じるようになったのは自分の知恵ではありません。聖霊様が罪について、義について、さばきについて私達を責めてくださった故です。不信者達が悔い改めてイエスキリストを信じるためにはこのような聖霊の責めを受けなければなりません。聖霊様は福音が述べ伝えられる所で責められることをなさいます。従って、皆さんはこの世を責められる聖霊様に頼って大胆に福音を伝えてください。

「テョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

歪曲



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

歪曲という言葉は否定的な意味を持っていますが、善と悪に関係されない場合があります。観覧客のため歪曲された姿に見える鏡がありました。

芸術家は作品にメッセージ表現するため、実際の事物を歪曲して表現したりします。鏡に照らす自分の歪曲された姿を見る人々は楽しめません。しかし、道徳と信仰に抵触される歪曲は人々に悪い影響を及ぼします。その中で一番大きい犯罪は聖書を歪曲することです。救いの真理を歪曲することは、人の魂に悪い行いであり、滅亡の道で行く犯罪です。たとえ、救いに関連することでも、聖書の御言葉の意味を歪曲されるように伝える、行為は信者達が持っている物と歳月を浪費するように導く犯罪を犯すことです。

まず、聖書の御言葉を歪曲して伝える原因を調べてみます。

第一は、知識不足からです。

ホセア予言者は“わが民は知識のないままに、滅びに瀕している。／あなたが知識を捨てたので／私はあなたを捨て、私の祭司にはしない。／あなたがあなたの神の教えを忘れたので／私もまたあなたの子らを忘れる。(ホセア書4:6) 悲しみました。聖書の確信はイエスキリストによって救いの良い知らせです。信仰で救いを得る恵みと真理です。この単純で明瞭な事実に対して無知な教会と指導者や聖徒がいます。彼らの中で自由主義神学、解放神学など人本主義的な神学に染められた者たちがいます。このような神学の共通点は聖書が聖霊に感動され、神様から受けて記録された本なので、間違いがないという事実を無視します。聖書を人間の知識と経験と理性で批判します。

第二は、先入観念のためです。

聖書が何をどのように話しているか、正しく知れば自分の先入観をおろして聖書を読まなければならないです。イエス様がパリサイ人に容赦なく責めたのは彼らが、聖書を詳しく調べて神様が語る御言葉の意味を知ろうとするより、宗教的な伝統と遺伝という先入観によって聖書を解釈して信じて教えたからです。教会の伝統と遺伝、そのものが悪いことではありません。ところが、そのことが先入観になり、聖書の御言葉を歪曲するようになり、これを信じて、教える場合、破綻を招きます。

第三 利己的な欲のためです。

教会の指導者達でありながら、宗教多元主義、宗教一致、宗教混合主義を従う原因は彼らが聖書の絶対的な権威を認めないから、彼らが聖霊で生まれ変わらなかったからです。また、世俗的な名声に対する利己的な欲で彼らの心の中にあつたからです。

第四は、高慢のためです。

自分の経験と知識に対する自信は、神様の御言葉を批判するようになります。人は一生習って体験したことがどのくらいでしょう。天地を御言葉で創造された神様の人生たちのため啓示された御言葉である聖書を自分が経験して習った知識で批判することは、度が超える高慢です。

次は、聖書に記録された御言葉を歪曲されたことを正しく教えるを調べてみます。

第一、人が善いことをしたから、救われるという教えは歪曲されたことです。人は神様から義人でもとめられてこそ救いを得ます。

人間の真実と救いを得る道に対しては、神様が啓示なさらないと誰も知りません。神様が聖書に啓示した救いの真理を七つで簡単に整理します。1) 人類の先祖であるアダムが神様の命令を拒んだので罪人になりました。2) アダムの後孫であるすべての人は罪を持っている罪人で生まれます。3) 罪人は神様の怒りの下であり、結局は裁きを受けて地獄刑罰を受けるようになります。4) 罪を無視したり、不認したら神様を嘘つき方にさせるので罪がもっと重なります。5) 罪は人の方法で解決できません。6) 罪がない神様の御子であるイエス様が、罪人の罪を贖うため、世に人として来られて釘に打たれて死なれ葬られ、三日ぶりに復活して天に昇りました。7) 誰でもこのような事実を悟って、イエスキリストを自分の救い主として受け入れるなら罪が赦されて、永遠な命を得て神様の子供になり天国市民になります。

人が自分の正義の行為によって義人になる道は全くありません。神様はイエス様を自分の救い主として信じ受け入れる人だけが義とされます。“人は皆、罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっていますが、キリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより価なしに義とされるのです。”(ローマ書3:23, 24) “しかし、人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、ただイエス・キリストの真実によるのだということを知って、私たちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の行いによってではなく、キリストの真実によって義としていただくためです。なぜなら、律法の行いによっては、誰一人として義とされないからです。(ガラテヤ信徒への手紙2:16)

第二は、私が尊いから神様が選んだのではなく、神様が私を選んだからこそ、私が尊くなりました。

世の中では、その人の血統と家紋、才能、地位、名声によって尊敬されます。しかし、神様の国ではそうではありません。真で永遠な尊いは神様の選択によります。神様から選択をされたか、されなかったか分別することはとても簡単です。イエスキリストを“真実に信じる人は“神様から選ばれた人です。“真実に”という言葉は“相変わらず”という意味が含まれています。患難、迫害、誘惑を受けても相変わらず、信じる人が真実に信じる人です。“真実に”という言葉にはイエスキリストだけを救い主“という意味も含まれています。神様によって尊い世から得られない真で永遠な尊いです。

第三、神様は私が善いことを行ったから、救ったことではありません。善いことを行いながら生きるように私を救ってくださいました。

永遠な命はすべての事を放棄しても得るべき価値があります。しかし、その放棄することが容易ではありません。多くのものを持つことは救いと永遠な命を得るのに障害になる可能性があります。だからこそ、神様がその選んだ民をキリストの中に導くために持っているものを失わせる場合もあります。私たちが知るべきことは、このような所有物を全て捨てるということはありません。何よりも、もっと重要なことを知り、永遠な命と私が持っているものと選択するなら、ちよちよなく永遠な命を選択する者にならなければなりません。聖徒皆さんが、もし、イエスキリストによって受けた救いを失われないため、善いことに力を尽くすと大間違いです。私たちが、得た救いは神様が与えてくださった救いです。誰からも奪われません。

“キリストが私たちのためにご自身を献げられたのは、私たちをあらゆる不法から贖い出し、良い行いに熱心な民を、ご自分のものとして清めるためだったのです。”(テモテ2:14)と言われました。この御言葉にわたしたちが、善いことに力を尽くす理由が書いてあります。救われるためではなく神様の国の民たように生きるためです。

第四、私が有能だから神様に用いられるのではなく、神様が使わせたから私が有能になる事です。

神様が、イスラエルの子孫たちをエジプトから救出するため、モーセを予備、イスラエルの指導者として立たせる意味を表しました。しかし、モーセは否定的な反応をみせました。“私はどうして、ファラオ王向かい、イスラエルの子孫をエジプトから導き出すでしょうか?”と尋ねると、神様がこたえまいた。“私があなたといつも共にいよう。”と誓いました。しかし、否定的な考えを捨てないモーセにこれから起きる事をおっしゃいながら、御業を行いました。それでもモーセが拒否すると神様が彼に話しました。“そこで主は彼に言われた。「誰が人に口を与えたのか。また、誰が口を利けなくし、耳を聞こえなくし、目を見えるようにし、見えないようにするのか。主なる私ではないか。だから行きなさい。私があなたの口と共にあり、あなたに語るべきことを教えよう。」それでもモーセが拒否したら、神様がモーセに怒っておっしゃいました。やっともーせは神様の命令に従順しました、すると神様の権能がモーセを通して現れてエジプトの王、ファラオを屈服させて、イスラエルの子孫達を導いてカナアンに向かって進みました。神様はモーセが有能で用いたのではなかったです。神様がモーセを使わしたから有名な働き人になりました。もし、私たちが有能だから用いられると高慢になったら、神様から捨てられます。使徒パウロは自分に力があるのは主が使わしたからです。“私は、かつては冒瀆する者、迫害する者、傲慢な者でしたが、信じていないときに知らずに行ったことなので、憐れみを受けました。”(テモテ第一1:12)

今日は、神様の御言葉を歪曲されて知っているか、教える原因に対して調べてみて聖書に記録された御言葉を歪曲して教えることを正しく教えるを説明しました。皆さんは聖書の御言葉を歪曲して話す者を分別して大胆に排斥してください。そして、聖書の御言葉を正しく伝える喜びを享受することを願います。